

平成31年度 当初予算・2月補正予算成立

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

平成31年度当初予算の規模

会計区分	31年度当初予算
一般会計	4,633億2,245万円
特別会計	782億2,259万円
企業会計	382億9,050万円
合計	5,798億3,554万円

2月定例県議会において、平成31年度当初予算が成立しました。4月に知事および県議会議員の選挙が行われるため、今回の当初予算は「骨格予算」とし、新たな施策に基づく新規事業については、選挙後の6月補正予算において肉付けを行います。ただし、これまで進めてきた北陸新幹線など高速交通体系の整備や「いちほまれ」のブランド化などの重要プロジェクト、福祉・医療・教育の充実など、県民生活に密接に関連し、年度当初から実施すべき事業については、当初予算に計上しました。また、道路・河川など社会基盤を着実に整備するとともに、国の第2次補正予算に対応した国土強靱化対策などを盛り込んだ2月補正予算を、当初予算と一体的に編成しました。

① 高速交通体系の整備促進

北陸新幹線の工事がピークに

2023年春の敦賀開業に向けて、北陸新幹線金沢・敦賀間の工事がピークを迎えています。来年度の政府予算案において、金沢・敦賀間の事業費として2,638億円が盛り込まれました。このうち県内区間の事業費は、今年度と比べ4割増の1,729億円。県も、負担金として288億円を計上しています。来年度は、引き続き九頭竜川橋りょうや新北陸トンネルなどの工事が進むことに加え、新たにレールの搬入や溶接も始まります。近く、敦賀・大阪間の大まかな駅・ルートも公表される予定となっており、開業に向けた準備が着々と進んでいます。



九頭竜川橋りょう工事



福井高柳高架橋工事



新北陸トンネル工事

整備が進む! 高規格道路

中部縦貫自動車道 大野油坂道路は、昨年から大野～大野東間の用地取得が本格化し、事業全体の取得率が9割を超えました。大野東～油坂間ではトンネルの掘削や橋りょうなどの工事が順調に進んでいます。来年度は荒島第2トンネルや新長野トンネルなどの工事を進め、北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通を目指します。また、福井港・テクノポート福井・北陸自動車道丸岡ICをつなぐ福井港丸岡インター連絡道路についても、早期完成を目指して用地取得を進めています。



大野油坂道路(荒島第2トンネル(仮称)付近)

② 重要プロジェクト等の切れ目ない推進

「いちほまれ」のブランド力を高める

昨年9月から本格販売を開始した新ブランド米「いちほまれ」。首都圏や関西・中京圏を中心に販路を広げ、高値での販売やリピーターの確保など、好調なスタートを切っています。来年度は生産量を増やし、販売店舗を全国に拡大します。また、百貨店などでいちほまれのPRやおいしい炊き方の説明を行う「いちほまれコンシェルジュ」も増員。さらに、県外のこだわり米穀店でのイベントを実施するなど、PRを強化します。

国際北陸工芸サミットを福井で開催

北陸の工芸の魅力を世界に発信するため、文化庁と北陸3県が連携して、平成29年度から「国際北陸工芸サミット」を開催しています。平成31年度の開催地は福井県。9月21日から10月27日の間、会場となるサンドーム福井に福井が誇る工芸品が集結します。会場では、工芸品の展示・販売を行うほか、体験ブースの設置や世界的アーティスト テオ・ヤンセン氏と越前和紙のコラボレーション作品、帆に風を受けて動く「ストランド・ビースト」の展示も予定。福井の工芸品の魅力を国内外に発信します。



ストランド・ビースト

打ち上げよう県民衛星

産学官金が協力し、県内企業の技術を結集した超小型人工衛星の打ち上げを目指す、「県民衛星プロジェクト」。衛星部材の開発などによる製造業の発展や、衛星から得られる画像などのデータを防災・農業・教育に活用することなどが期待できます。2020年度に海外の商用ロケットで県民衛星を打ち上げるため、来年度は、いよいよ衛星の製造を開始します。

ジュラシック・ワールド恐竜モニュメントを設置

映画「ジュラシック・ワールド 炎の王国」に登場したティラノサウルスのモニュメントを、恐竜博物館の入口付近に設置します。(国内初公開) 今年の夏に公開を予定。恐竜博物館に、新たな魅力スポットが誕生します。



恐竜モニュメント設置イメージ

③ 福祉・医療・教育の継続充実

保育士などの仕事をサポート

私立の保育所、認定こども園が、園児と遊んだり、寝かしつけを行う保育補助者や、掃除・給食の配膳などを行う職員を雇用する際の費用を支援。保育士などの負担を減らし、働きやすい環境を整えます。



子どもたちの世話をする保育士

利用しやすい福井県子ども急患センターに

休日や夜間など、時間外の子どもの診療にあたっている「福井県子ども急患センター」の患者数は、年間1万人を超えています。休日には待合室が大変混雑することなどから、利便性を高めるため、建物の改修を行います。

次世代につながる美しい県立学校

老朽化が課題となっている県立学校施設の大規模改修を行うことで学習環境を改善し、学力の向上につなげます。校舎や体育館の長寿命化とあわせ、暑さ・寒さ対策、スロープや多目的トイレの設置、照明のLED化などバリアフリー化、省エネ化を進めます。

外国人児童・生徒の学びを支援

現在、県内の小中学校では、外国人などおよそ200人の児童・生徒が日本語教育を必要としています。こうした課題に対応するため、学校への日本語指導員の配置や、日本語と外国語を翻訳する機器の整備を進め、市町を支援します。



外国人児童への個別指導

④ 国の新たな制度への迅速な対応

最新技術で農業を効率化

担い手不足への対応や効率化による生産性の向上など、農業分野における課題について、ICTを活用した農業機械や生産管理システムの導入による解決を図ります。国の平成30年度第2次補正予算において、新たにスマート農業の実証化を行う事業が予算化されたことから、来年度、再来年度の2年間、水田の大規模経営を行っている農家、ICT農機を扱う企業と協力し、ロボットトラクタやドローンなどを活用したスマート農業の導入可能性を検証します。



無人で動くロボットトラクタ

U・Iターン人材を確保

県外からの新たな移住者を増やし、人手を確保するため、国の制度を活用し、東京圏から県内へ移住した人を支援する制度を創設します。県内の中小企業などに就職する移住者には移住支援金を支給。県内で創業する移住者には移住支援金に加え、創業支援金を支給します。また、福井の主力企業である製造分野、若者に人気があり、将来の成長も見込めるIT分野において、県内企業がU・Iターン者を雇用する際に、人件費を支援する制度を国の補助金を活用して設けます。さらに、移住人材を積極的に開拓するため、県内企業が求める人材を直接スカウトする「人材開拓員」を、福井と東京のUターンセンターに1名ずつ配置します。



専門員がU・Iターン者をサポート

⑤ 社会基盤の着実な整備と国土強靱化への対応

県民の生活に重要な役割を果たす道路や橋りょう、河川などの工事を継続して進めます。また、政府による「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の閣議決定を受けて、大規模な自然災害に備えるための対策を集中して進めます。

社会基盤の着実な整備

福井森田丸岡線の九頭竜橋(仮称)(福井市)
国道8号や福井丸岡線など九頭竜川を渡る箇所が発生している渋滞を解消するため、全国初となる道路と新幹線の一体橋整備を進めています。
国道365号梅浦バイパス(越前町)
道幅が狭く、急勾配、急カーブが連続するため、大型車も安全にすれ違えるようバイパス道路の整備を進めています。
都市計画道路の敦賀駅東線(敦賀市)
北陸自動車道敦賀IC、国道8号から北陸新幹線敦賀駅に向かうアクセス道路整備を進めています。
笙の川の河川改修(敦賀市)
市街地を流れる笙の川の氾濫を防ぐため、河川改修を進めます。
河内川ダムの整備(若狭町)
ダム下流域を大雨による浸水被害や渇水被害から守るため、ダムの整備を進めています。今年の6月に完成する予定です。



整備中の河内川ダム

国土強靱化対策

- ・国道416号の古市橋などで耐震化工事を行うほか、福井四ヶ浦線など25か所で消雪設備を補修します。
- ・樹木・堆積土砂などによる洪水や氾濫を防ぐため、竹田川や日野川など10河川で樹木の伐採などを行います。
- ・南越前町大谷ほか8か所で崩れた山地の復旧工事を行います。